

令和元年度

教育委員会の事務に関する点検評価報告書

令和2年7月

鳩山町教育委員会

1 はじめに

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「法」という。）の一部改正（平成 20 年 4 月 1 日施行）により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとなりました。

この報告書は、鳩山町教育委員会が法の規定に基づき、毎年度教育行政の基本方針として定めている鳩山町教育行政重点施策に関し、令和元年度に重点的に取り組んだ事業について、点検及び評価を実施した結果をとりまとめたものです。

2 点検評価の対象及び方法

鳩山町では、毎年度「教育行政重点施策及び努力点」を定めております。この重点施策は、教育委員会がその年度に重点的に取り組むべき施策として定めており、これに基づき、教育委員会が自ら点検評価を実施するものです。

また、法第 26 条第 2 項の規定に基づく、有識者の活用については、学識経験者 3 名から意見をいただきました。

氏 名	経 歴 等
清水 玲子	元 県立高校教諭
小鷹 直樹	元 体育協会副理事長
永堀 圭子	元 鳩丘小学校 P T A 会長

3 鳩山町教育振興基本計画の策定の主旨

グローバル化や ICT の発達・普及が進展する中、一方では環境問題、食料・エネルギー問題等、人類全体で取り組まなければならない問題が山積となっています。特に日本では、少子高齢化の進行に伴う経済規模の縮小や、労働力の低下、社会保障費の増大等が懸念されるとともに、家庭・地域の教育力の低下、ライフスタイルの多様化などにより人間関係が希薄化しており、私たちを取り巻く社会環境は、かつてないスピードで進んでいます。

一方で、天災をきっかけとして、助け合いや地域コミュニティを軸とした支え合いが見られるなど、「人の絆」の大切さが強く認識され、教育に関するさまざまなニーズや、安心・安全な教育環境を求める要望は増加傾向にあり、教育の果たす役割は、ますます重要になっています。

このような中で、鳩山町教育委員会では、平成 24 年度に今後の 10 年間を見据えた教育の姿「基本指針」を示すとともに、平成 28 年度までに前期 5 年間に

実施すべき教育施策や事業を具体的に示した「鳩山町教育振興基本計画」を策定しました。

この計画は平成28年度末に終了し、国、埼玉県教育振興基本計画や本町の第5次総合計画を基に、令和3年度までの後期5年間に予想される社会の変化等を踏まえ、時代に即した「鳩山町教育振興基本計画」を平成29年3月に策定しました。

この「鳩山町教育振興基本計画」では、教育を取り巻く社会の動向や前期の「鳩山町教育振興基本計画」の成果と課題などを検証・分析した上で、重点的に取り組む基本目標・施策・事業の体系を示しています。

4 鳩山町いじめ防止基本方針の策定

平成25年9月に「いじめ防止対策推進法」が施行され、同年10月に国において「いじめ防止等のための基本的な方針」が策定されました。同法第12条において地方いじめ防止基本方針の策定が規定され、平成26年1月には「埼玉県いじめ防止等のための基本的な方針」が策定されました。

鳩山町でも、町内の小・中学校におけるいじめ防止等のための対策を総合的かつ効果的に推進するため平成27年3月に「鳩山町いじめ防止基本方針」を策定しました。それを受け、平成27年12月18日に「いじめ問題対策連絡協議会」を開催し、鳩山町におけるいじめ問題の実態や、鳩山町教育委員会の取り組み及び関係機関との意見交換を行いました。また、いじめ問題について重大な事態が発生した際、調査を行う「鳩山町いじめ問題調査委員会」も設置いたしました。

なお、町内の各小・中学校では、同法第13条に規定される「学校いじめ問題基本方針」は既に策定されています。

5 鳩山町教育行政の重点施策

【基本理念】

『意欲を育み 心をつなぐ』

鳩山の子供の実態、鳩山町教育振興基本計画を踏まえ、未来に希望を持ち、心豊かに、力強く生きていく鳩山の子を育てるために「意欲を育み 心をつなぐ」を基本理念とする。

1 意欲を育むために

愛情（人間愛）を基本に、学び合い・触れ合い・認め合い・励まし合い、心安らぐ居場所を作り、家庭・学校・地域で意欲を育む。

- 2 心をつなぐために
一緒に行動（協働）することを基本に、共に信じ、喜び、絆を深めながら愛情を持って見守ることで心をつなぐ。
- 3 意欲と心をつなぐために
言葉の力で「意欲を育み、心をつなぐ」前向きな声掛けをする。特に、「おはよう、ありがとう、ごめんなさい、どうぞ、どういたしまして」の言葉を大切に指導する。

【重点施策】

- I 確かな学力と自立する力の育成
- II 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進
- III 安心・安全な教育環境の整備・充実
- IV 家庭・地域社会と連携した教育の推進
- V 生涯学習と生涯スポーツの振興
- VI 文化の振興と文化財の保存・継承・活用の推進

【努力点】

- (1) 確かな学力と自立する力の育成
 - ① 一人ひとりを確実に伸ばす教育の推進
 - ② 時代の変化に対応する教育の推進
 - ③ グローバル化の進展に対応する力を育む教育の推進
 - ④ キャリア教育・職業教育の推進
 - ⑤ 特別支援教育の推進
 - ⑥ 創意工夫を生かした幼稚園教育の充実

- (2) 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進
 - ① 豊かな心を育む教育の推進
 - ② いじめ・不登校問題等の対策に向けた教育相談・支援体制の充実
 - ③ 教育相談・支援体制の充実
 - ④ 体力づくり活動の推進
 - ⑤ 食育の推進
 - ⑥ 発達段階に応じた健康教育の推進
 - ⑦ 学校給食の充実と地産地消の推進
 - ⑧ 給食センター内の衛生管理の徹底

- (3) 安心・安全な教育環境の整備・充実
 - ① 教育委員会活動の透明性の確保
 - ② 教職員の資質の向上

- ③ 学校組織の活性化
- ④ ICT機器等を含む学習環境の整備
- ⑤ 学校施設の整備・充実
- ⑥ 学校規模の適正化の推進

(4) 家庭・地域社会と連携した教育の推進

- ① 開かれた学校の充実
- ② 家庭教育支援体制の充実
- ③ 地域の教育力の向上
- ③ PTA等の各種諸団体との連携強化

(5) 生涯学習と生涯スポーツの振興

- ① 多様な生涯学習の機会の提供と支援
- ② 文化芸術活動の振興
- ③ 生涯学習の学びのサポートと情報発信
- ④ スポーツ・レクリエーションの振興
- ⑤ 社会教育施設・スポーツ施設等の整備・維持管理
- ⑥ 図書館サービスの充実と読書活動の推進

(6) 文化の振興と文化財の保存・継承・活用の推進

- ① 南比企窯跡群の国指定史跡化への登録推進と指定後の啓発・活用検討
- ② 各種文化財の調査研究
- ③ 無形文化財の保存・継承
- ④ 埋蔵文化財センター・多世代活動交流センターの活用
- ⑤ 学校教育・生涯学習との連携

6 重点施策に基づき取り組んだ主な事業と評価

(1) 確かな学力と自立する力の育成

①一人ひとりを確実に伸ばす教育の推進

【総務・学校教育担当（指導主事）】

- ・鳩山町学力向上推進委員会では、令和2年度からの学習指導要領改訂に向けて、小学校のプログラミング教育、小学校の外国語教育、また主体的対話的で深い学びを目指した「学び合い学習」について協議を進めました。
- ・教育委員会では、町費任用の学習支援講師として幼稚園に1名、小学校に3名を配置するとともに、特別支援教育支援員を小学校に4名配置しました。

- また、小学校に英語指導助手 1 名を配置するなど人的措置を講じています。
- ・小・中学校では全ての学年において「35 人学級」を実現するために町費による少人数指導学習支援講師 3 名を配置し、きめ細やかな学習・生活指導ができる環境づくりを進めました。

【評価】

- ・鳩山町学力向上推進委員会として、鳩山町教育委員会が作成した「鳩山町プログラミング教育の指針」をもとに、プログラミング教育の研修を、鳩山町教育委員会と各学校で実施することができました。また、「鳩山町学び合い学習の指針」を学校現場とともに作成し、令和 2 年度からの主体的対話的で深い学びを目指した授業改善に向けた取り組みの礎を築くことができました。
- ・町費任用の学習支援講師の配置や、特別支援教育支援員の措置によって、児童・生徒一人ひとりに目が届きやすくなり、いじめや非行などの問題行動の抑制に大きな成果を上げています。落ち着いた学校生活の中で集中して学習に取り組める環境が整うことにより、県の学習状況調査でも多くの児童生徒が前年度より学力を伸ばすことができました。
- ・常に初心を心掛け、安心・安全な学校づくり、少人数学習支援講師の配置による確かな学力の定着、また、信頼関係に基づいた授業の展開などに努めることにより、きめ細やかな学習・生活指導を進め、保護者から信頼される学校環境づくりに努力を続けています。

②時代の変化に対応する教育の推進

【総務・学校教育担当（指導主事）】

- ・公立幼稚園、各小・中学校では各々に研究課題を設定し、研究を行い、特色ある教育活動を展開しました。教育委員会は適宜サポートする体制で関わっています。
- ・令和元年度の公立幼稚園、各小・中学校の研究課題は以下のとおりです。

鳩山幼稚園	幼児の育ちを支える保育を目指して ～よりよい指導計画の作成と実践・検証～
亀井小学校	「言語活動を通して自分の言葉で豊かに表現できる児童の育成」～自分の言葉で表現する機会を確保する～
今宿小学校	「新しい時代の教育を具現化するための授業実践」
鳩山小学校	「英語を使ったコミュニケーションを楽しむ児童の育成」
鳩山中学校	考え・議論する道徳授業の創造

【評価】

- ・公立幼稚園、各小・中学校では各園各校の幼児、児童、生徒や地域の実態を

的確に把握し、課題を設定して研究に取り組みました。いずれの園や学校も創意を生かした特色ある教育活動を展開することで特色ある園づくり、学校づくりが行われました。

③グローバル化の進展に対応する力を育む教育の推進

【総務・学校教育担当（指導主事）】

- ・令和2年度から教科となる小学校外国語科および外国語活動について学力向上推進委員会を中心にその在り方について職員で研修を進めました。
- ・町費による小学校英語講師だけでなく、中学校のALTを計画的に配置し、英語活動の充実を図りました。

【評価】

- ・学力向上推進委員会を中心に外国語教育について協議を進めました。また、小学校と中学校の外国語教育の円滑な接続を目指し、令和2年度より、金曜日を「鳩山町・小中一貫の日」とし、中学校の英語科教員が毎週金曜日に小学校へ出張して、小学校の外国語の授業に参加するという取り組みを始めることになりました。こちらは、外国語教育の円滑な接続を目指すのみならず、いわゆる「中1ギャップ」をなくすための取り組みでもあります。

④キャリア教育・職業教育の推進

【総務・学校教育担当（指導主事）】

- ・小中学校の学年ごとの発達の段階に合わせ、計画的で系統的にキャリア教育を進めています。中学校1年生では地域の協力を得ながら3日間の職場体験学習を実施し、事前学習や事後学習を含め、丁寧な指導が行われています。また、2年生は、町内にある大学訪問を行いました。

【評価】

- ・中学校1年生での職場体験学習や、2年生での大学訪問などの体験や、達成感や満足感、自信や自己有用感を感じ、働くことや学ぶことへの意欲につながる有意義な学習が行われました。

⑤特別支援教育の推進

【総務・学校教育担当（指導主事）】、【幼稚園】

- ・小学校に4名の特別支援教育支援員を配置して特別に支援を必要とする児童へのきめ細やかな指導支援を行っています。また、特別支援学級の新担任となった教員には研修に参加させ、指導力の向上にも努めました。また、県立毛呂山特別支援学校の特別支援学級コーディネーターとの連携を密に行うことで、より専門的な見地からの指導支援も行うことができました。

【評価】

- ・令和元年度の町内の特別支援学級は、亀井小学校に知的学級、自閉症・情緒

学級が2学級、今宿小学校に知的学級、病弱学級、自閉症・情緒学級各1学級の計3学級、鳩山小学校に知的学級の1学級、鳩山中学校に知的学級、自閉症・情緒学級各1学級の計2学級、合計8学級を立ち上げました。また、県の特別支援教育推進専門員や、県立特別支援学校の特別支援教育コーディネーター等を活用し、担当の指導力向上を図ることができました。

⑥創意工夫を生かした幼稚園教育の充実

【幼稚園】

- ・幼稚園教育が学校教育の始まりであることを踏まえると、教職員の指導技術の向上や、資質向上が不可欠であり、園内での研究課題に取り組むことや、県内の教育研究会に積極的に参加することで、幼児にとって、確かな成長の基本を形成できるよう尽力しました。
- ・幼稚園から小学校への円滑な進学ができるよう、年長組の後半から小学校生活を意識したカリキュラムを作成しました。その中で、年長組園児が亀井小学校を訪問し、1年生の児童との交流会を実施しました。また、幼稚園職員が1年生の授業を見学するなどして、小学校の教職員との情報交換会を行いました。
- ・預かり保育は、保護者の就業希望が増加する中で、幼稚園の教育時間終了後に、希望する保護者に対して、午後4時30分まで実施しました。
- ・社会性の芽生える3歳児とその保護者を対象とした未就園児保育体験を、年間15回実施しました。
- ・個人差の大きい幼児一人ひとりに確かな成長を促すことができるよう、学習支援講師を配置し、担任の指導補助を行いました。
- ・令和元年10月より、幼児教育・保育の無償化事業が始まり、幼稚園の保育料が無償となりました。加えて、認定を受けた幼児は預かり保育料についても無償となり、保護者の保育に係る負担を軽減することができました。

【評価】

- ・教職員の研修では、園内の研究課題を「幼児の育ちを支える保育を目指して」として取り組み、成果を紀要にまとめました。職員同士が共通の課題をもって取り組んできたことを、今後の指導に役立て、さらなる研鑽を積みたいと考えています。
- ・年長組園児の小学校訪問では、施設を実際に訪れ、小学生と関わりながら学校生活を体験しました。園児が就学に向けて期待がもてる場となりました。
- ・預かり保育は、保護者が安心して幼児を預けて、就労や急用を済ませることができる場として好評でした。年間の預かり保育日数185日、一人当たりの平均利用回数は27回でした。
- ・未就園児の保育体験は、新型コロナウイルスへの対応の為、計画より1回減の15回の実施となりましたが、入園後の園児や保護者が安心して幼稚園生

活を始めることができました。

- ・学習支援講師の配置については、担任教職員と協力し合い、園児一人ひとりのペースに寄り添いながら指導にあたることで、園児も安心した気持ちで活動に取り組むことができました。
- ・こども子育て支援新制度を受けて、鳩山町立鳩山幼稚園保育料等徴収条例を改正し、これまで徴収していた標準月額 9,000 円の保育料が、すべて無償化されました。預かり保育料についても、4 歳児 5 名、5 歳児 6 名、計 11 名が認定を受け、無償化となりました。10 月以前の 1 日の利用者は平均 3.1 人でしたが、10 月以降の利用者は平均 6.8 人と増加しました。

(2) 豊かな心と健やかな体を育む教育の推進

①豊かな心を育む教育の推進

【総務・学校教育担当（指導主事）】

- ・各学校で、日々の学校の教育活動や、豊かな体験活動を通じて道徳的な心情、判断力、実践意欲や態度を育てています。道徳・学活の時間の確保と充実を図り、各学校の創意と工夫を生かした豊かな体験活動を展開することで、児童生徒に体験の中で実践的・経験的に道徳的心情の醸成を図りました。

【評価】

- ・地域や家庭の協力を得ながら、各校で創意と工夫を生かした豊かな体験活動を展開することで、児童生徒に体験の中で実践的・経験的に道徳的心情の醸成を図りました。亀井小学校の「昔を学ぶ会」や今宿小学校の「学校ファーム」、鳩山小学校の「学校応援団活動の充実」、鳩山中学校の「手作り体験教室」等、学校を中心とした地域全体で子供を育てる体制づくりに尽力しました。
- ・児童生徒一人ひとりの発達段階に合わせた学校教育における人権教育の実践や、社会教育分野における人権教育を関係機関や団体などと協力連携し、計画的に事業を推進しています。学校における人権教育の成果として教職員などの指導により、児童生徒が相互に協力することを学び、その結果、他人を思いやる気持ちが身につき、行動することができるようになってきています。

②いじめ・不登校問題等の対策に向けた教育相談・支援体制の充実

【総務・学校教育担当（指導主事）】

- ・校長情報交換会や教頭研究協議会で、小・中学校間の情報連携を行い、積極的な相談体制を作り、いじめの早期発見、早期対応を図りました。スクールソーシャルワーカーやさわやか相談員を中心に、各学校を訪問し、実態把握に努めました。
- ・各学校において、いじめの日常の実態把握のためにアンケートの実施や個別

の面談を行いました。さらに、県から中学校に派遣されるスクールカウンセラーの計画的な活用を図りました。

【評価】

- ・校長情報交換会や教頭研究協議会で、小中学校間での情報連携を行い、積極的な相談体制を作り、いじめの早期発見、早期対応を図りました。スクールソーシャルワーカーがさわやか相談室を中心に、各小・中学校を訪問し、実態把握に努めました。また、さわやか相談員が計画的に小学校を訪問することで、学校での相談活動が充実しました。
- ・各学校において、いじめの日常の実態把握のためにアンケートの実施や個別の面談を行いました。さらに、県から中学校に派遣されるスクールカウンセラーの計画的な配置及び活用を図りました。

③教育相談・支援体制の充実

【総務・学校教育担当（指導主事）】

- ・中学校配置のさわやか相談員、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーによる支援を充実させるよう努めました。個別相談等、教職員が個に応じた心のケアに努めて参りました。

【評価】

- ・中学校のさわやか相談員の存在を、小学校の家庭へも学校だより等で周知し、その児童・保護者の支援も積極的に行うことができました。また、中学校では令和2年度よりQUテストを2回実施し、その結果を個別相談に活かすことができました。

④体力づくり活動の推進

【総務・学校教育担当（指導主事）】【幼稚園】

- ・鳩山町体力向上推進委員会の活動を充実させ、体力向上、健康教育に組織的に取り組みました。各学校における健康教育の全体計画を作成し、系統的・計画的に発達段階に応じた健康教育を推進しました。
- ・学校保健委員会等に外部講師を招いての「健康教育」に関する教職員・保護者対象の講習会の開催や、歯科衛生士を招き、児童を対象とした歯科授業を展開するなど、健康教育の充実を目指した取り組みを行いました。

【評価】

- ・鳩山町体力向上推進委員会の活動を充実させ、体力向上と健康教育に町内の学校全体で足並みをそろえて組織的に取り組むことができました。小・中学校の体育・保健体育の授業を充実させることで、体力の基礎を養いました。また、各学校における健康教育の全体計画を作成し、系統的・計画的に発達段階に応じた健康教育を進めることができました。

⑤食育の推進

【総務・学校教育担当（指導主事）】、【給食センター】

- ・幼稚園では、園児と畑やプランターで野菜を栽培し、収穫をした野菜の試食をしました。また、保健センターと連携し食育教室を年2回行いました。
- ・過年度から引き続き、学校と連携して「早寝早起き朝ごはん」運動を継続しました。
- ・地域の農産物栽培者の協力を受け、地場産物を積極的に給食に取り入れることにより、郷土の文化を知ること及び食への関心を高める努力をしました。
- ・栄養教諭による食に関する授業や給食集会及び給食試食会等で講話を行うとともに、食育だよりを毎月発行し、食への正しい情報を伝えました。
- ・子供の食育を考える町内プロジェクト「はとっ子給食レシピコンテスト」の優秀作品を実際の学校給食として提供し、児童生徒の食に関する意識の高揚を図りました。

【評価】

- ・過年度から引き続き実施している「早寝早起き朝ごはん」運動を継続し、朝食欠食児童等の減少に取り組みました。
- ・地域の農産物を積極的に給食に取り入れ、食材について理解することにより、郷土の文化を伝えました。
- ・食への関心を高めるため、栄養教諭による食に関する授業や給食集会及び給食試食会等で講話を行うとともに、食育だよりを毎月発行し、食への正しい情報を伝えました。
- ・子供の食育を考える町内プロジェクト「はとっ子給食レシピコンテスト」の優秀作品を実際に学校給食の献立として全学年の給食に提供し、児童生徒の食に関する意識の高揚を図りました。
- ・幼稚園で栽培した野菜を、園児が自分で収穫することで「食べたことが無かったけれど食べてみよう」、「いつものよりおいしかった」というように、食への関心と幅を広げることができました。また、食育教室では、食生活改善推進員から、行事食や栄養の話聞き、園児の食生活への振り返りの機会となりました。

⑥発達段階に応じた健康教育の推進

【総務・学校教育担当】

- ・学校における健康教育を計画的に実施するとともに、関連機関と連携し「薬物乱用教室」などの実施を推進します。

【評価】

- ・毎年、夏季休業に入る前の時期に、薬物乱用防止及び非行防止教室を実施し、西入間警察生活安全課少年係署員の方に、具体的な事例の情報提供と、その危険や誘惑を避けるための方法を講演いただいています。実施後の生徒の感

想文には、「薬物の危険性がよくわかった。」「薬物の誘惑に負けない行動をとりたい。」などの記述が見られました。

開催日：令和元年7月2日

対象学年：全校生徒

参加人数：246名（当日欠席12名）

講演名：薬物乱用防止及び非行防止教室

講師：西入間警察生活安全課少年係署員

⑦学校給食の充実と地産地消の推進

【給食センター】

- ・新学校給食センターの完成に伴い、一新された調理環境で、これまで提供することができなかった献立や、より一層の「安心・安全な給食」の提供を心がけています。
- ・食材については、町内及び県内で採れた農産物及び農産物加工品を積極的に給食に取り入れ、それらを通じて郷土の文化を伝えました。また、季節ごとの行事(イベント)に応じたメニューや旬の食材を給食として提供することにより食を通じた四季を実感することができます。その他にも、他国の料理等を給食用にアレンジし、子供達に提供することで「食」を通じた探究心やグローバルな視点を育みます。
- ・町ホームページ等を活用し、給食に関する情報を町内だけでなく広く発信しています。

【評価】

- ・新学校給食センターの完成に伴い、一新された調理環境で、これまで提供することができなかった献立や、より一層の「安心・安全な給食」の提供ができるようになりました。
- ・町内で採れた農産物及び農産物加工品を積極的に給食に取り入れ、それらの食材について理解することにより郷土の文化を伝えました。
- ・季節ごとの行事(イベント)に応じたメニューや旬の食材を給食として提供することにより食を通じた四季を実感することができます。
- ・他国の料理等を給食用にアレンジし子供達に提供することで、食を通してそれらに対する探究心やグローバルな視点を育みます。
- ・対外的にも広く鳩山町の学校給食を周知してもらうために、町ホームページ等で、毎日の給食献立及び使用地場産食材を、画像とともに広く発信しています。

⑧給食センター内の衛生管理の徹底

【給食センター】

- ・新学校給食センターの完成に伴い、一新された調理環境で、これまで以上に衛

生管理の徹底を心掛けています。施設の中で大きく変わったところは、旧給食センターでは「ウエットシステム」という床等に水を流すことで雑菌等を洗い流す仕組みで調理等をおこなっておりましたが、新学校給食センターにおいては雑菌の繁殖するもととなる水を流さない「ドライシステム」を採用し、衛生管理につとめております。

- ・出来上がった給食の配送にも以前はなかったコンテナシステムを採用し、極力外気に触れないように町内小・中学校に配送しています。
- ・調理員達が着る白衣やシューズ、調理に使用する数々の備品も一新された消毒保管庫にて殺菌・滅菌し、清潔な状態で使用できるようにしております。
- ・日常的な手洗いも爪ブラシを使用し、爪の隙間のよごれや雑菌をとりのぞくよう丁寧な手洗いを心がけています。

【評価】

- ・給食調理後の清掃など、職員全員で時間をかけ丁寧に作業をしています。
- ・丁寧な手洗い、手洗い後の消毒、使い捨てペーパータオルの使用による徹底した衛生管理を実施。身だしなみもスタッフ相互で確認をおこない髪の毛や爪等が出ていれば、その場で対処しています。
- ・配送に使用しているコンテナも、毎日の泡洗いの後に水滴を拭きとり清潔な状態を維持しています。
- ・調理器具・作業着・シューズ等、日常的に使用する消耗品以外のものは毎日洗浄(洗濯)し、消毒保管庫内にて殺菌消毒をしています。
- ・月に2回の保菌検査、身辺に胃腸炎等の発症者が出た際のノロウイルス検査など、検査機関と連携し速やかな検査体制を維持しています。
- ・給食調理のない長期休み期間等に、スタッフ全員で衛生管理の研修等に参加することで、衛生に係る情報を共有し、今後の事業につなげています。

(3) 安心・安全な教育環境の整備・充実

①教育委員会の透明性の確保

【総務・学校教育担当（総務・学務）】

- ・委員会の開催日時、議題等を町のホームページを活用して町民に周知するとともに、議事録の要約版を公開して委員会の可視化に努めます。

【評価】

- ・委員会の開催前には、町ホームページに、開催日時等を公開し、傍聴についても、広く周知した。
- ・議事は、個人情報も多く含む議題も多く、そういった場合には、傍聴人がいた場合についても、一時的に退席いただき、秘密会として扱うことになっている。

②教職員の資質の向上

【総務・学校教育担当（指導主事）】

- ・小中学校では、毎時間の授業を充実させ、児童生徒に確かな学力をつけることが教師の第一義的な役割であることを鑑み、教師の指導力向上を目指して教育指導を行いました。主体的対話的で深い学びを目指し、授業改善を行ってまいりました。
- ・教育委員会では、教職員が子供と向き合える環境づくりのため、校務の効率化など事務処理等の負担軽減の支援を行いました。

【評価】

- ・転入職員の授業参観、各校授業研究会での指導、教育委員会訪問など、各校の訪問指導を充実させました。また、授業改善への取り組みとして主体的対話的で深い学びを目指した授業を目指し、「鳩山町 学び合い学習の指針」を作成し、令和2年度からの本格導入に向けての基礎を作ることができました。
- ・教職員が子供と向き合える環境づくりのため各学校での通知表の電子化や学校閉庁日の設定など、事務処理等の負担軽減に取り組むことができました。

③学校組織の活性化

【総務・学校教育担当（指導主事）】

- ・学校間連携事業を推進し、小・中9年間にわたる児童生徒の学びと育ちの連続性を重視した教育を展開しました。また、学校運営や教育活動の自律的、継続的な改善に役立てるために学校評価の活用を図りました。さらに、一人ひとりの教職員の自己評価システムと学校評価システムの連鎖について検討し、人事評価システム研修会などを実施しました。

【評価】

- ・令和2年度より毎週金曜日を「鳩山町 小・中一貫の日」として、中学校の英語科教諭が小学校へ出張することとした。それに向けて、令和元年度は校長会、学力向上推進委員会で協議を重ねることができた。いわゆる「中1ギャップ」の解消のため協議した。
- ・学校評価を適切に行い、学校便りを通じて地域へ結果を公開し、反省点を改善するなどして、教育環境を始めとする学校の教育力の向上に取り組みました。さらに、一人ひとりの教職員の自己評価システムと学校評価システムの連鎖に向け、人事評価システム研修会を実施し、管理職同士の情報交換を通じて、理解を深めました。

④ICT機器等を含む学習環境の整備

【総務・学校教育担当】

- ・具体的な環境整備への取組みとしては、文部科学省から委嘱を受けている「ICTアドバイザー事業」として、信州大学教授を町教育委員会へ派遣していただき、平成28年9月から11月にかけて、3日間(9月29日・10月19日・11月17日)学習支援のためのICT環境の導入と運用についてアドバイスをいただきました。中長期的な計画が大切であること、また、学校現場の生の声を生かすことが重要であること等の指導をいただき、その後情報化推進計画を作成し、現在進行中です。
- ・ICT機器の導入状況については、令和2年1月に中学校パソコン教室には現状のデスクトップパソコンから、タブレットパソコンへ変更しました。それによりタブレットパソコンを持ち寄りグループで話し合いながら学習できる環境となり、また普通教室への持ち運びが可能となりました。教育用パソコン小中学校計104台、校務用パソコン小中学校91台、プロジェクターについては中学校に4台、小学校各1台で計7台、その他デジタルカメラを小中学校計34台、移動式のデジタルテレビ、大型提示装置、デジタル教材などを配置しています。
- ・インターネットを活用した授業展開を目的とし、平成28年5月に、教師用として、試行的(試験運用的)に各校2台、計8台のモバイル型のルーターとタブレットパソコンを配置し、平成29年5月には、校務用パソコン入替時に「ホワイトボード一体型プロジェクター」を小中学校合わせて10台導入しました。また、平成30年5月には、タブレットの更なる活用のために、各学校において、無線LANの利用を可能とする「アクセスポイント」を各学校の教室等に4～5ヶ所設置し、計13台の設置が完了しました。平成30年9月に「教育用サーバー」及び「小学校教育用パソコン」の入替を行い、小学校3校のパソコン教室において、現状のデスクトップパソコンから、普通教室へ持ち運びが可能なタブレットパソコンへ変更しました。
- ・ICT環境整備は、情報化時代を生き抜く児童・生徒の育成のため、分かりやすい授業を展開し、情報活用能力、判断力、表現力等を育成していくことが非常に重要なことと捉えています。タブレット等の導入等を含め、各機器リース満了前には、予め学校現場や校長会等で打合わせの場を持ち、新学習指導要領等を踏まえ、限られた予算の中で工夫しつつ、近年着実に進めているところです。

【評価】

- ・学習環境整備を進めていく過程、活用面における評判としまして、学校現場からは、「学習に対する意欲や集中力が向上し、子供たちの表現が多様化した」、「児童と共に情報を発信しながら考えを深められるので、思考力・判断力・表

現力だけでなく言語能力も伸びたと感じる」などが報告されています。また、インターネットなどを通じた豊富なデジタルデータ、写真・図表を使用した資料作成が表現として可能となったことにより、「グループでの話し合いなどの試行錯誤の過程で、資料の修正・追加等が自由となる」ほか、「それぞれがタブレットパソコン等で、まとめた意見を電子黒板等に表示し、クラス全体での共有が可能となり、効率的な授業が展開できる」など、大いに役立っていると、教育現場において特に好評です。

- ・平成30年9月導入の小学校パソコン教室においては、拡張モニターを付随機器とし、タブレットとモニターの2画面同時使用を可能としたことにより、タブレットをお手本として確認しながら、拡張モニターで作品を制作するなど、活用面においても非常に効果的となっております。
- ・引き続きこれらのICT機器を効果的に活用し、教育効果を高めていくことを課題としています。そのために、今後とも教員の研修の機会を増やしていかなければならないと考えています。

⑤学校施設の整備・充実

【総務・学校教育担当（総務・学務）】、【幼稚園】

- ・学習環境の整備・充実として、下記のとおり修繕等工事を行いました。

学校名	主な学校施設改修工事
亀井小学校	なし
今宿小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・汚水排水ポンプ交換工事 ・職員室空調機交換工事 ・エレベーター建屋内防水工事
鳩山小学校	<ul style="list-style-type: none"> ・職員室空調設備改修工事 ・受水槽ポンプバルブ交換工事
鳩山中学校	<ul style="list-style-type: none"> ・電気設備（高圧交流負荷開閉器 PAS）改修工事

【評価】

- ・国全体としても、公共施設等の老朽化対策が大きな課題となっている中、町教育委員会においては、学校施設の安全・安心を第一としておりますが、経年劣化が極度に進行しており、各学校の校舎等の給排水施設、電気設備など、緊急的な修繕にも適切に対応したいと考えております。
- ・近年の酷暑の影響もあり、空調設備の改修・修繕についても積極的に行いました。
- ・法令等に基づいて、定期点検等を行い、学校側からの具体的な要望等も随時把握するようにしています。その中で、国等の補助事業で対応できるものについては積極的な活用も視野に入れ、安心・安全な施設に整備したいと考えています。

⑥学校規模の適正化の推進

【総務・学校教育担当（指導主事）】

- ・平成 35 年度までの児童生徒数の見込みを算出し、各学校の空き教室数の状況について予測をしましたが、地域の諸事情や教育面でのメリット、デメリット等を個別・具体的に検討する必要があるとあり、現段階までにおいて教育委員会等で検討するまでには至りませんでした。

【評価】

- ・児童・生徒数の将来推計や、空き教室の状況等を分析し、今後は、学校施設等の管理者である町長と教育委員で組織する総合教育会議において、詳細かつ具体的に協議を重ねていく必要があると考えています。
- ・鳩山町公共施設等総合管理計画等においても、学校施設のあり方、地域ニーズや費用対効果など、影響を受けると思われる教育面を総合的に評価し、適正化を検討する必要があると考えます。
- ・前述のような協議を重ねるとともに、地元や地域の方々の理解を得ながら、引き続き慎重に検討していかなくてはならない課題と考えます。

(4) 家庭・地域社会と連携した教育の推進

①開かれた学校の充実

【総務・学校教育担当（指導主事）】、【幼稚園】

- ・「学校応援団」の活動を通じて、保護者や地域住民の参加を促し、学校を核とした「学校」・「家庭」・「地域」が一体となった児童生徒の育成を推進しました。また、各小・中学校の学校便りを地域に広く配布するなどして、積極的な学校の情報公開に努めました。

【評価】

- ・「学校応援団」の活動としては、学校の学習活動支援のため、地域の方に講師や指導の補助を依頼しました。また、児童・生徒の安心・安全の確保のため、登下校時の見守りやパトロール、校内の植栽等、幅広くご協力いただきました。
- ・各小中学校の「学校便り」を地域で回覧だけでなく、学校医の病院等、学校関連施設に掲示していただく等、学校の情報公開に努めました。また、運動会・体育祭や音楽会などの学校行事には、多くの地元地域の方に参加いただきました。

②家庭教育支援体制の充実

【総務・学校教育担当（指導主事）】、【幼稚園】、【生涯学習担当】

- ・就学時健康診断の機会等に、「埼玉県家庭教育アドバイザー」と連携し、家庭の教育力の向上や支援の充実を図りました。また、幼稚園・保育園と連携し、子育て情報誌「はとっ子応援団」を各子育て機関と協力して発行し、子育て中

の保護者の相談や遊び場の情報提供をした他、未就園児保育体験でも情報提供しました。

親の学習講座事業の実施状況

位置づけ	時期	会場	回数	テーマ	参加者	指導者
就学時健診	10月	各小学校	各1回	元気に学校生活を送る	52名	3名
家庭科授業	7・10月	鳩山幼稚園	3回	乳幼児と中学生のふれあい授業	169名	45名
新入学説明会	1月	鳩山中学校	1回	思春期の心	85名	1名
合計			7回		294名	49名

- ・乳幼児と中学生とのふれあい体験学習を、中学校の家庭科の授業において実施しました。特にこの授業は、「乳児や幼児との接し方」の単元に基づく体験学習で、日頃、乳幼児等とふれあう機会の少ない中学生が、乳幼児の可愛らしさや命の大切さを感じることで、親への感謝の気持ちを育むことを目的にしています。当該事業については、平成19年度から社会教育委員が中心となって中学生、幼稚園児、乳幼児を持つ保護者、埼玉県家庭教育アドバイザーなど、多数の方々のご協力をいただき実施しているもので、近隣市町村からも授業の視察が来るなど、県内でも注目されている事業です。

【評価】

- ・就学時健康診断の機会などに、「埼玉県家庭教育アドバイザー」が親の学習を行うとともに、埼玉県教育委員会が推奨する“3つのめばえ”の説明を行い、小学校入学に向けたアドバイスを行いました。
- ・幼稚園・保育園と連携を深め、保護者に対して教育委員会の相談窓口を紹介するようにしました。その結果、5名の就学児の保護者と継続した面談を行い、子育てに対するアドバイスと就学への不安を解消することができました。
- ・子育て情報誌「はとっ子応援団」を読んだ保護者が、各子育て機関の場所や計画を知り、興味をもって参加する姿が見られました。また、未就園児保育体験の場では、「園だより」等も時折配布し、子育て情報を提供してきました。

③地域の教育力の向上

【総務・学校教育担当（指導主事）】、【生涯学習担当】

- ・町内各小学4年生から6年生までを対象に、「子ども大学はとやま」を年6回開講し、町内の大学である東京電機大学、山村学園短期大学や民間企業などと連携して、様々な講義や実験に取り組みました。

【評価】

- ・普段学校では学ぶことのできない経験を、大学で異年齢とともに学習するこ

とによって、学年を越えて交流が深まり貴重な体験ができました。地域で協力して子どもを育てる仕組みを構築することができたものと考えます。

④ P T A等の各種諸団体との連携強化

【総務・学校教育担当（指導主事）】、【生涯学習担当】

- ・町内各小・中学校 PTA の児童生徒の健全育成と家庭教育の充実を図るため、各校PTAの主催する家庭教育学級への支援を中心に、取り組みを行いました。

家庭教育学級

日時	会場	内容	主催	参加者
1/14(火)	県立鳩山高校ほか2校	高校見学会	鳩山中学校 PTA 家庭教育学級	19名
2/7(金)	県立坂戸高校ほか2校			23名

【評価】

- ・親子のコミュニケーションの大切さや家庭教育の重要性などについて、「地域を挙げて子育てに取り組む町鳩山」実現のため、「家庭教育学級」の学習活動を位置づけ、事業を実施しました。
- ・本年度において「家庭教育学級」の事業実施状況は中学校1校であったことを踏まえて、各小・中学校PTAが幅広い家庭教育の効果的な活動の推進、児童生徒の健全育成と家庭教育の充実実現のため、事業のあり方等について再検証も必要と考えます。この事業の成果については、各種活動への理解を涵養することができ、親子のコミュニケーションの大切さ、家庭教育の重要性などについて改めて考える機会を提供できたものと捉えております。

(5) 生涯学習と生涯スポーツの振興

①多様な生涯学習の機会の提供と支援

【生涯学習担当】、【公民館】

- ・人権を尊重する教育の推進では、さまざまな人権問題を解決するため人権教育を系統的、計画的に推進し、人権教育・人権啓発事業に取り組みました。主な人権教育推進事業では、小学生を対象とした「のびのび鳩山」（1～3年生）を6回実施しました。「のびのび鳩山」では、児童が相互に協力し町内の散策やものづくりを通して、豊かな心や思いやりの心を醸成するための体験学習の場を提供しました。「初めて万華鏡を作って楽しかった」、「1年間みんなと一緒に活動できワンチームになれた気がする」、「是非来年も参加したい」など保護者や児童から感想がありました。

のびのび鳩山

(単位：名)

回	日 時	会場	内 容	参加者数
1	6/15 (土) 9:00~11:30	農村公園	みんなで遊ぼう	26
2	6/29 (土) 9:00~11:30	中央公民館	七夕飾りを作ろう	36
3	8/22 (木) 9:00~15:30	小川げんきプラザ	プラネタリウムを見に行こう	38
4	9/28 (土) 9:00~11:30	中央公民館	万華鏡を作ろう	33
5	12/14 (土) 9:30~12:00	山村学園短期大学	山村短大のクリスマス会に参加しよう	34
6	1/18 (土) 9:00~11:30	石坂集会所	書初めとお汁粉を楽しもう	11

- ・「生涯学習講座」は人権教育推進事業の一環として、男女ともに幅広い年齢の人々に学ぶことへの意識が高まっている中で、学習者の自己実現のみならず、地域社会の活性化、高齢者の社会参加・青少年の健全育成を支援します。参加者のニーズに対応した企画立案に務めています。

生涯学習講座

(単位：名)

回	日にち	時間	内 容	会 場	参加者数
1	5/22 (水)	9:00~16:00	春の植物観察 講師 中澤 利雄 氏	長瀬町	29
2	9/26 (木)	9:00~11:30	石坂の自然と歴史散策 講師 中澤 利雄 氏	町内	22
3	1/28 (火)	9:00~11:30	リズム体操 講師 広江 久美子 氏	中央公民館	10

- ・研修会等では、
教職員を対象とした「人権問題研修会」が開催され、東松山市教育委員会の田中辰弥氏による「教職生活を振り返って～人権教育に携わって～」と題した講演に教職員は熱心に学習し、充実した研修会になりました。
また、「比企郡市人権フェスティバル」が小川町で開催され、「広げよう！あなたと私から ぬくもり、つながり、思いやり」をテーマとして実施され、園児によるマーチングバンドのオープニング、「橋はかかる～被差別部落に生まれ育って～」と題して村崎太郎さん(猿まわし芸人)による講演がありました。また、昼休みに各市町の舞台発表もありました。
- ・高齢者の社会参加活動の推進と地域活動の活性化を図ることを目的とした各種講座を実施しました。

各種講座

No.	講座名	回数	募集人数	申込者数	参加延人数	内 容
1	寿大学	3回	定員なし	323名	544名	講演会、県外研修、「人権問題を考える町民のつどい」参加
計				323名	544名	

- ・同じ趣味を持ち、同じ目的を持つ者同士の学習の場を持つことにより、お互いに高め合いながら、学習することができるようにしました。

趣味・教養講座

No.	講座名	回数	募集人数	申込者数	参加延人数	内 容
1	秋のハイキング	1回	27名	27名	27名	東京都檜原都民の森ハイク
2	しめ飾り教室	1回	10名	8名	8名	しめ飾りの作成方法を学ぶ
計				35名	35名	

- ・その他、関係機関との連携により、下記の事業を行いました。

事業名	日にち	場所	共催団体等
第 62 回鳩山町民体育祭	10 月 6 日	鳩中第 2 グラウンド	スポーツ協会
第 37 回鳩山駅伝大会	11 月 24 日	鳩山町内	スポーツ協会
第 46 回正月マラソン大会	1 月 3 日	農村公園周辺	スポーツ協会
鳩山町成人式	1 月 12 日	文化会館	町・教育委員会主催

人権問題研修会等実施状況

(単位：名)

日にち	時 間	内 容	会 場	参加者数
8/21 (水)	10:00~12:00	鳩山町人権問題研修会 講演：演題「教職生活を振り返って～人権教育に携わって～」 講師：東松山市教育委員会 集会所 指導員 田中 辰弥 氏	鳩山町役場	77
11/16(土)	9:30~15:00	第17回比企郡市人権フェスティバル オープニング おがわ幼稚園マーチングバンド 講演：演題「橋はかかる～被差別部落に生まれ	リリックおがわ	717

		育って～」 講師：村崎太郎さん（猿まわし芸人） 各市町舞台発表		
--	--	---------------------------------------	--	--

【評価】

- ・人権教育推進事業や研修会等の開催により、さまざまな人権課題について町民一人ひとりがその現状を正しく理解する学習機会に参加され、自分自身の問題として自他を大切にすることを醸成することができたのではないかと考えています。しかしながら、参加者は団体や組織などに所属する一部の方に限られるため、今後もより多くの人々に研修会、講演会、学習会への参加を呼びかけ、さまざまな人権課題の解決に向け、一人ひとりの人権意識の高揚を図るべく、人権教育・人権啓発に努めていきたいと考えています。
- ・石坂集会所については、人権教育・人権啓発を推進するための拠点施設であると同時に、日頃から地域住民の集会施設として利用されており、文化活動や相互交流の場として一定の評価はできると思われます。ただし、通常は無人の施設であるため、今後も施設設備の定期的な点検を励行し、町民が快適に利用できるよう、適正に管理運営していきたいと考えています。
- ・町民の年間活動を一堂に展示した祭典や高齢者の地域活動の活性化を図ることを目的とした各種講座を開催し、文化活動の向上と推進を図りました。生涯学習の機会として、多くの参加者を得ることができました。

②文化芸術活動の振興

【生涯学習担当】、【公民館】

- ・あるテーマに基づき、町民等が自分の意見を発表する機会を設け、さまざまな立場の人々の意見に耳を傾け、意見の違いを互いに認め合う、寛容な考え方を通して交流を図る「第5回言ってんべー・聞いてんべー大会」を開催しました。

「第5回言ってんべー・聞いてんべー大会」

日 時	会 場	発表者	テ ー マ	来場者数
11/3（祝） 13:30～15:10	鳩山町文 化会館	小学生 6人 中学生 2人 高校生 2人 一 般 4人	〈仕事について〉 ①昔、していた仕事について ②今の仕事について ③将来やってみたい仕事について 〈私の楽しみについて〉 ①昔楽しみにしていたことについて ②今楽しみにしていたことについて ③これから楽しみにしたいことについて	約150名

- ・地域の機関・文化芸術団体と連携を図り、発表の場や参加の機会の拡充を図りました。

第 24 回だれでもチャレンジステージ（会場：文化会館ホール）

開催日時	内 容	出演者数	前年度比	来場者数	前年度比
6月16日 10:00～	吹奏楽、合唱、独唱、演奏、 お囃子、舞踊、ダンス、 演舞 等	団体 14 個人 3	団体 △1 個人 0	325名	△25名

※主催：だれでもチャレンジステージ実行委員会 協力：教育委員会、中央公民館

第 44 回中央文化祭（会場：中央公民館ホール・ロビー、文化会館ホワイエ）

公民館利用者団体を中心に、町内地域住民の年間活動を一堂に展示した
芸術文化の祭典を開催し、文化活動の向上と推進を図りました。

本年も、鳩高・鳩中美術部に作品出品の協力をいただきました。

開催日	内 容	出品者・数	前年度比	来場者数	前年度比
11月3日 ～4日	絵画・生花・書道・手工芸 品・写真・俳句など	団体 19 個人 1 429点	団体 △2 個人 +1 +8点	332名	+188名

※中央文化祭実行委員会と共催

第 24 回鳩山陶芸展（会場：文化会館ホワイエ）

陶芸活動を通して構築した創作群を一堂に展示することにより、地域文
化の向上と推進を図りました。

開催日	参 加 団 体 名	出 品 数	来場者数	前年度比
11月3日 ～4日	山吹会・なずな窯の会・ きんもくせい窯の会・釉遊会・ 陶芸倶楽部マスキー・陶芸入門教室	91点	320名	+8名

※鳩山陶芸展実行委員会と共催

【評価】

- ・本年で5回目となった「言っぺんべー・聞いてんべー大会」は、学校推薦の部は町内の小中学校や高等学校の協力により選出していただいております。公募の部は社会教育委員の方々のご尽力等により必要最低限の人員を確保している状況です。今後は更に、誰もが気軽に発表できるよう発表方法等を工夫していく必要があると考えます。発表の内容については、学校推薦の部では、「将来の夢や環境」、「思いやりの気持ちや絆」などについての発表があり、一般の部では、「自身が今楽しみにしていることや町の伝統行事、農業の面白さ」などの発表がありました。参加者の感想からは、「発表内容がとても良かった」、「もっと多くの人達に来ていただきたいかった」との声が多

くありました。近年は情報系端末の普及により、日常の会話やコミュニケーションの大切さが求められる中、言葉による発表の機会を提供する事業として始めたもので、参加者も含め、今後の町のあり方等について考えさせられる有意義な発表会でした。

- ・地域で活躍・活動をしている団体等の日頃の成果を発表する場として、中央文化祭、鳩山陶芸展を開催しています。各参加者には日頃の創作活動の成果を披露できるということで、大変好評を博しているとともに、自分たちで盛り上げていこうとする機運も見え始めました。

③生涯学習の学びのサポートと情報発信

【生涯学習担当】、【生涯スポーツ担当】

- ・「子ども大学はとやま」では、子供の学ぶ力や生きる力を育み、地域の教育力を向上させるとともに、鳩山町と東京電機大学、山村学園短期大学、地球観測センターが連携し、町内在住の小学校 4～6 年生を対象に、科学の実験や観察、施設見学などの講義を年 6 回実施しました。参加者は、毎回他校や異学年の仲間たちと協力して一生懸命学び合いました。参加者感想アンケートでは、「なるほどと思ったり、心に残ったりすることが多かった」、が最も多く、満足度アンケートでは「とても満足」が最も多かったです。保護者からの感想は、「毎回講義を楽しんでいました。視野が広がったように思います」、「大学で学習することで特別感があり、楽しく受講していました」、「講義内容が様々で興味を惹かれて三年間参加しました。他施設や博物館などでの講義もよい経験でした。これからも楽しく面白い講義をお願いします」などの感想がありました。今後も参加者や保護者の意見や要望を踏まえ、東京電機大学、山村学園短期大学等と協議して子供たちに学習の機会を提供していきたいと考えています。

子ども大学はとやま

(単位:名)

回	日 時	会 場	内 容	参加者数
1	6/22(土)9:00~12:00	東京電機大学	入学式 電子回路をさわって学ぼう	23
2	7/6(土)9:00~11:30	山村学園短期大学	風とあそぶ	26
3	8/26(月)10:00~12:00	地球観測センター	宇宙から地球を見ると何が分かるかな?	23
4	9/7(土)9:00~15:30	埼玉県立川の博物館	川の博物館へ行こう	23

5	10/27(日)9:00~11:30	中央公民館	岩石標本作り	19
6	12/21(土)9:00~12:00	東京電機大学	光の不思議な性質を使って、髪の毛の太さを測ってみよう、修了証書授与式	23

【評価】

- ・「子ども大学はとやま」では、町内の大学等が連携・協力し、特色を生かした学習活動を提供することができました。また、実際に大学のキャンパス等を会場に、大学教授や地域の専門家等が講師となり、子供の知的好奇心を刺激する講義や実験などを通して、子供の学ぶ力や生きる力を育むとともに、地域で地域の子供を育てることができたと考えます。

④スポーツ・レクリエーションの振興

【生涯スポーツ担当】

- ・「だれもが、いつでも、どこでも気軽に参加できるスポーツ」といった生涯スポーツの原点に基づき、スポーツ少年団やスポーツ協会、スポーツ推進委員・スポーツ振興委員協議会と連携し、各種スポーツ大会等を開催し、スポーツの振興を図っています。また、スポーツ協会各競技部主管による大会や講習会等を開催し、健康維持増進と体力づくりの機会を提供しています。

主な大会等と参加者数

名 称	参加者数
第 40 回町民グラウンド・ゴルフ大会（個人戦）	211 名
第 12 回小学生グラウンド・ゴルフ大会	37 名
第 41 回町民グラウンド・ゴルフ大会（団体戦）	34 チーム
第 62 回鳩山町民体育祭	延べ 1,608 名
第 37 回鳩山駅伝大会	41 チーム
第 46 回鳩山町正月マラソン大会	326 名
第 27 回鳩山親善サッカー大会	12 チーム
第 37 回鳩山町スポーツ少年団野球大会	15 チーム
第 13 回鳩山町近隣交流ミニバスケットボール大会	6 チーム
第 29 回鳩山町少年剣道大会	30 名
ソフトバレーボール公開教室（全 12 回）	延べ 167 名
町民卓球教室	中止

【評価】

- ・スポーツ少年団やスポーツ協会、スポーツ推進委員・スポーツ振興委員協議会との連携により各種スポーツ大会等を開催し、スポーツ振興と住民の健康維持増進を図りました。しかしながら、毎年、同じ事業の展開により、参加者が

固定化されていることから、新たなスポーツ・レクリエーション事業の積極的な展開を図ることで、より多くの住民がスポーツ・レクリエーションに触れられる場を増やし、町民の健康・体力の増進に結び付けたいと考えます。

⑤社会教育施設・スポーツ施設等の整備・維持管理

【公民館】、【生涯スポーツ】

- ・利用者が常に安全かつ安心して施設を使用できるよう維持管理に努めています。施設の状態を都度把握し、早急に修繕を要する箇所は可能な限り職員が対応しました。施設の老朽化が進み、頻繁に補修や修繕を行っているところです。

【評価】

- ・限られた予算の範囲内で、利用者からの要望に沿うよう工夫・努力しながら、維持管理等を行っていますが、全ての要望等に応えられていないのが現状です。予算と修繕箇所を照らし合わせ、補修の優先順位を決定するとともに、補修方法も工夫しながら、施設の維持管理に努めていきます。

⑥図書館サービスの充実と読書活動の推進

【図書館】

- ・ホームページをリニューアルし、情報をより分かりやすく伝え、快適に利用できるようデザインや構成の見直しを行ったほか、スマートフォンを利用したのアクセスに対して専用ページで対応できるようになりました。また、蔵書検索システム（OPAC）では、本の表紙画像が表示されるようになりました。
- ・利用者数の拡大を図るため、乳幼児を対象とした「すこやかブック事業」や、未就学児を対象に絵本の読み聞かせと手遊びを実施する「うさぎちゃんのへや」、小学生までの児童を対象として絵本の読み聞かせと紙工作をする「こどもおはなし会」を実施するとともに、保育園・幼稚園児及び小・中学生を対象に図書館の書籍や行事をお知らせする「図書館だより」を発行しました。
- ・障害者サービスの向上を図るため、ボランティアの方による対面朗読の実施、音声ガイド付き映画鑑賞会を開催しました。
- ・一般の方にも来館して頂こうと人形劇サークルの協力を得て「子ども人形劇場」の開催、また図書館主催による「シネマホール」を毎月開催し来館者の増員に努めました。

【評価】

- ・図書館では、図書、記録その他必要な資料を収集し、整理し、保存して、町民を主とする一般公衆の利用に供し、その教養、調査研究、レクリエーション等に資することが求められており、利用者の学習及び調査研究活動の多様化を

支援することを目的として、書籍や視聴覚資料の所蔵に加えインターネットが利用できる環境を整備していきます。

- ・今後も少子高齢化への対応や障害者サービスの向上なども含め、多様化する住民ニーズに対応できるよう財政事情が厳しい折、事業内容等を精査し、一層の向上と読書環境の改善に努めていきます。また、学校図書館との連携を推進して参ります。

(6) 文化の振興と文化財の保存・継承・活用の推進

①南比企窯跡群の国指定史跡化への登録推進と指定後の啓発・活用検討

【文化財保護・町史担当】

- ・南比企窯跡群の国指定史跡化に向け、次のような事業を実施しました。

ア、復元古代窯を活用した焼き物づくり体験

「焼き物づくり体験」

期間：上級コース 7月9日～19日

初級・中級コース 7月31日、8月2日、3日

会場：多世代活動交流センター

町内外の方々を対象に計81名が参加し、須恵器やミニ瓦などの焼き物づくりを体験しました。(参加者 上級24名 初級・中級57名)

「復元窯焼成実験」

期間：10月15日～19日、30日

会場：農村公園内復元古代窯

歴史・観光ボランティア、町職員の協力を得て、7、8月に開催した「焼き物づくり体験」で作った作品を中心に、10月18日午前9時から翌19日午後1時30分まで窯の火を止めることなく、最高1,150℃の中で焼成しました。

- ・第44回鳩山町中央文化祭への作品出展

日時：11月3日(木)～4日(金・祝)

会場：中央公民館

焼き物づくり体験で作った作品を中央文化祭で展示し、鳩山町の文化財についてのPR活動も行いました。町外の方も含め、2日間で138名の方が見学に来られました。

- ・「令和元年度鳩山町・国分寺市連携事業」

ア 国分寺市 市外文化財めぐり

期 間：7月27日

内 容：町内窯跡見学、ミニ瓦作り体験

場 所：鳩山町遺跡、多世代活動交流センター
参加者：21名

【評価】

- ・南比企窯跡群の国指定史跡化に向け、今年度は、『南比企窯跡群総括報告書（仮称）』の原稿執筆作業と図版編集作業を進めてきました。今後も継続して国指定史跡への登録に向け各種の業務を推進して参ります。

②各種文化財の調査研究

【文化財保護・町史担当】

- ・各種文化財の調査研究として、次のような事業を実施しました。

ア 町内遺跡の確認調査

各種開発に先立ち、確認調査を随時実施し、遺跡の内容と範囲の把握を行いました。令和元年度の確認調査箇所は9か所でした。

また、発掘調査を3か所で実施しました。

【評価】

- ・通常の出土遺物整理作業に加え、確認調査、発掘調査の実施に対応すべく、熟練した調査補助員を引き続き確保していきたいと考えています。

③無形文化財の保存・継承

【文化財保護・町史担当】

- ・無形文化財の保存・継承として、以下の町指定無形民俗文化財の保存団体に補助金を交付しました。

ア 今宿八坂神社祭囃子保存会

イ 泉井獅子舞保存会

ウ 熊井祭囃子保存会

【評価】

- ・無形文化財の保存・継承のため、引き続き財政的な支援を行っていききたいと考えています。

④埋蔵文化財センター・多世代活動交流センターの活用

【文化財保護・町史担当】

- ・展示室の活用として、次のような展示活動を行いました。

ア 出土品展示室の活用として、鳩山町内の遺跡、出土遺物を縄文時代から近世まで時系列で展示し、「鳩山町の歴史～いにしへの宝物たち～」と題して文化財展を開催しました。

【評価】

- ・多世代活動交流センター展示室は、鳩山町の歴史を通史的に学べるように展示しており、今日までに多くの方に見学いただいております。今後も文化財保護事業へ興味や関心を持っていただけるよう、展示室のリニューアルや企画展等の充実を図っていきたいと考えています。

7 おわりに

教育委員会では、今までも教育行政の重点施策について、点検・評価を行い進めて参りましたが、平成19年度から始まった学識経験者の知見を活用することにより、さらに目標に向けて努力することが必要であるとのご意見もいただきました。

今後とも外部評価委員のご意見・ご提言を真摯に受け止め、さらに研鑽を積み、より効果的な教育行政の推進に努力して参ります。